

あいサポート通信

～ あいサポート企業・団体の皆さまへ、あいサポーターの活動やボランティア募集、障がい福祉に関する情報をお届けします ～

ご紹介

障がい者が暮らしやすい社会づくり事業補助金を活用された企業を紹介します。

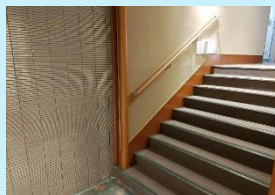
皆生つるや 様

あいサポート認定企業として

以前から、多くの高齢者・障がいのあるお客様に御宿泊いただいております。私どもの体制も整備する必要から、全員で継続して取り組むことを理念とし行動することとしたことが、あいサポート企業認定のきっかけです。認定後は、月例会議での動画視聴、外部講師を招聘しての座学や実践的な誘導訓練を実施し、お客様に安全安心に快適にお泊りいただけるよう心掛けております。

補助金利用のきっかけ

こうした研修を通じて、次のように課題が浮き彫りになりました。①完全なバリアフリーではない。②備品・設備が整っていない。③誘導する案内表記が全くない。これを補うため、補助金を利用し整備を決定しました。



補助金での整備後のお客様の反応等

携帯スロープや手摺を整備することにより、男性2人掛かりでサポートしていたところを女性1人でもサポート出来るようになったため一連の動作がスムーズに運び、何より障がい者の方々の負担も少なくなりました。障がい者の方が何度も利用され補助金の有効性を強く感じております。

今後の取組について

現在、あいサポート活動の取組をInstagramにも掲載し、あいサポート研修を受けた社員にはバッジの着用を義務付けて業務に当たるようにしております。これまでもこれからも、難しいことをするつもりはありません。まず「出来ることから始める。そして継続していけること」がこの活動において最も大切なことだと思っております。今後もあいサポート活動を継続し発信し続けていくことで「あいサポートの輪」が地域全体に広がっていけばと考えています。



韓国訪問記

社会福祉法人鳥取福社会 アクティブ津ノ井 所長 田中 功 様

令和6年12月10日～13日、鳥取県と江原特別自治道の障がい者福祉分野交流事業に参加してきました。この事業は、障がい者施設等の視察、関係者との意見交換等を通して両県道の障がい者福祉関係者との交流の促進と相互理解と友好を深め、本県の障がい者福祉施策の一層の充実を図ることを目的に平成21年から実施されています。本年は、あいサポメッセンジャー5名、鳥取県職員3名からなる訪問団が江原特別自治道を訪問しました。御存じのとおり、鳥取県と江原特別自治道は平成26年から「あいサポート運動」の連携協定を締結し、共同して「あいサポート運動」を推進して10年目となります。

私は、平成28年に続いて2回目の参加となりました。4日間の主な日程は、意見交換会をはじめ、障がい者福祉施設・福祉館の視察6か所、医療・職業リハビリテーション施設の視察2か所、地域の文化体験3か所と息つく暇もないくらい盛り沢山でした。今回の意見交換会や視察でたくさんの気づき共感がありましたのでご紹介します。

「江原道特別自治道総合福祉館」では、その事業の中でコミュニケーション支援ボードの作成をはじめとした「コミュニケーションしやすいまちづくり」、人権を学び、自分にできることを考え発表する「小中高校生向け障がい者人権教育」、障がい者が地域社会から孤立しないよう支える市民サポーターの育成や、趣味などを通じてマッチングする「お互いのとなりプログラム」を展開していました。これは、障がい者も暮らしやすい社会を実現するため、障がいを知り・理解し、障がいのある方へのちょっとした配慮や手助けをする「あいサポート運動」に通じるところがあると感じました。

このほか「江陵市障がい者総合福祉館」では、IT先進国の韓国らしくVR(仮想現実)やAR(拡張現実)を使ったゲームやリハビリのコンテンツを取り揃え、しかも無料で利用できることから、施設への訪問を増やし、障がいの有無に関わらず「まぜこぜ」で楽しめる機会を提供していました。

このように国は違えども障がいの有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい社会づくりに尽力されていることを知ることができ、大変有意義な訪問交流となりました。

最後になりましたが、私たち鳥取県訪問団を温かく迎え入れ、歓迎して下さった江原特別自治道の皆さま、障がい者福祉施設の皆さま、お世話になり本当にありがとうございました。





あいサポートメッセンジャー紹介

境港市社会福祉協議会 渡邊礼子さん



冬は夜空を彩る星空が最も美しく、この明かりの下に様々な人々の暮らしがあります。私たちの人生も同様に、暗闇の中で行路を照らし導く存在は本当にありがたいものです。

さて、鳥取県では先進的に、障がい者への配慮を学び必要なサポートをすることにより、障がいのある方もない方も誰もが暮らしやすい社会の実現を目指す「あいサポート運動」に取り組んでいます。

かつて平井知事は、宮柊二の詩「街路樹は冬あらはなる 枝張りて 空の寒さを 支へあたるかな」と冬の寒さのなか落葉した枝をかいっぱい広げる街路樹の姿が、まるで社会を支えてくれているように、共生社会の理想に重ねてご紹介された事があります。この頃、自身の母が難病を患い、家族皆が心打ちひしがれた時に耳にしたこの言葉は私を励まし、あいサポートメッセンジャーの原点ともなりました。

現在、私は境港市社会福祉協議会にて障がい者・家族の方とともに、地域や企業、医療関係者や学校等各方面であいサポート研修会をさせていただき8年が経ちました。障がい者のみなさんの“人のために”と地域に飛び込み住民と真剣に向かい合うその姿には、辛い経験を乗り越えてきたゆえの強さ、明るさ、温かさを感じさせ、周囲への大きな触発となり温かな南風を届けてくれています。

メッセンジャーとして活動する中で、相手の幸せを願う心性、社会や未来をよくしたいという熱い思いは必ず相手に伝わることを教えていただきました。他者の悩みを自分の心に収め、心寄り添い共に進んでいく。“共生社会実現への起点は、他者を自分に重ねること”にあるのかもしれませんが。私を育み、支えてくれた父母をはじめ、これまで出会ってきたたくさんの障がい者のみなさんへの感謝を忘れずに、自らも人々の足元をそっと照らす存在でありたいと思います。

本年、四年に一度の国際スポーツ大会「デフリンピック」が日本で初めて開幕し、開催地の東京都では大会に向け手話通訳サポーターが続々と誕生していると聞きます。私たちもあいサポート運動の連帯の輪をさらに広げてまいりましょう。



あいサポーター、あいサポート企業・団体の現況

令和6年12月末現在

◆ あいサポーター：696, 861人◆

鳥取県 90,965人、島根県 74,960人、広島県 260,080人、長野県 74,372人、奈良県 29,828人、埼玉県（富士見市、三芳町、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、狭山市、川口市、和光市、吉川市、松伏町、加須市）23,069人、山口県 38,182人、岡山県 39,021人、和歌山県 28,291人、京都府（長岡京市、福知山市）4,455人、神奈川県（大和市）775人、北海道（登別市、苫小牧市）6,358人、大阪府（大阪市、和泉市）10,430人、兵庫県（西宮市）2,766人、茨城県（取手市）355人、愛媛県 7,599人、名古屋市 1,582人 協力団体等3,773人

◆ あいサポート企業・団体：3,107企業・団体◆

鳥取県829、島根県 247、広島県 846、長野県 185、奈良県 94、埼玉県116、山口県 311、岡山県 146、和歌山県 64、北海道 103、大阪府 51、京都府 50、兵庫県 18、茨城県 13、愛媛県 28、神奈川県 1、名古屋市 5

新たに下記企業・団体が“あいサポート企業・団体”に認定されました！

（令和6年9月1日～令和6年12月末現在）

特定非営利活動法人なんぶ里山デザイン機構、日本海ケーブルネットワーク株式会社、株式会社ランドサイエンス、社会福祉法人うわなだ福祉会上灘児童センター、倉吉市関金児童館、鳥取県東部森林組合、勝田神社、医療法人社団日翔会、株式会社JCBエクス、泉龍寺、株式会社 大新、株式会社 さじ武拾壺、一般社団法人鳥取県法人会連合会 とっとり出会いサポートセンター えんトリー、社会福祉法人清心福祉会 和Latteめだか工房、阿部珈琲株式会社、株式会社 かわばた、株式会社備中屋本店、余子地区民生児童委員協議会、連合鳥取東部地域協議会、社会福祉法人 因伯子供学園、有限会社大成商事、社会福祉法人あゆみ会 トーゲン倉吉、社会福祉法人希望の家

【問合せ先】 社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 福祉振興部

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 県立福祉人材研修センター内

電話：0857(59)6344 FAX:0857(59)6340 Eメール:aisapo@tottori-wel.or.jp